

風見章 （幼名） 政治家。明治十九年二月十一日茨城県生乳、昭和二十六年十一月二十日歿（八六—一九六）。明治四十二年早稻田大學政治學部卒。『大阪朝日新聞』記者、『信濃毎日新聞』主筆を経く、昭和五年衆議院議員（當選九回）、十二年内閣書記官長、十五年法相として新體制運動を指導。戦後は、二十七年政界復帰、のち日本社会黨左派に屬し、『中國父回復運動』を主導。

著書 『各士の語る城南』（一文字欽也著、昭和十五年四月二十日婦人往来社）、『愛ふみやみ死をおそれるもの』（今なき生きぬく心）（合著・理論論集部編、昭和二十五年十一月十日理論社）、『近衛内閣』（昭和二十六年七月二十日日本出版協同株式会社）、『愛國者の道』

（合著・淡徳二郎編、昭和二十七年五月十五日青木書店「青木文庫」）、『祖國一國とおもひひとさおとろ』（昭和二十七年九月一日理論社）等。須田楨一著『風見章とその時代』（昭和四十年十月十日みずが書房）刊。

